科目名		情報Ⅰ			単位数	2	履修区分	必履修
対象の部		午前	午後	夜間	使用教科書 教材	最新情報Ⅰ (実教出版)		
履修の条件								
先生からの アドバイス		情報Ⅰでは、プログラミングのほか、ネットワーク（情報セキュリティを含む）やデータベースの基礎等について学習します。						
評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学ぶ態度		
観点の内容		情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。		事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。		情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。		
評価 方法	学習状況の観察	△		△		◎		
	プリント	△		△		◎		
	提出物	△		△		○		
	定期考査	◎		◎		○		
学期	月	学習内容（単元名）		評 価 規 準				
前 期	4	オリエンテーション		<ul style="list-style-type: none"> ・情報の特性を活用した事例と、情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。 ・SNSの活用など、不特定多数を対象としたコミュニケーションの注意点を挙げることができる。 ・情報と情報技術の活用により加害者にならないための注意点や被害者にならないための対策方法をそれぞれ挙げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい報告書やレポートを作成するため、文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫し、教員の助言や相互評価に基づいて改善しようとしている。 ・プレゼンテーションの実施やWebページの公開にあたって、情報伝達の目的に適合するコンテンツ制作に努め、試行錯誤しながら個人やグループのコンテンツ制作の技能を高めようとしている。 			
	5	第1章 情報社会と私たち						
	6	第2章 メディアと情報デザイン						
		定期考査 ①						
	7	第3章 システムとデジタル化						
9								
後 期	10	第4章 ネットワークとセキュリティ		<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する各装置の機能と相互の関係考え、適切に接続して動作させることができる。 ・コンピュータの計算の仕組みについて、順序立てて説明することができる。 ・情報機器を相互に接続するために、適切なインタフェースを選択することができる。 ・アナログとデジタルを比較し、その特徴を適切に説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する装置とその性能について興味・関心を示し、自分で調べようとしている。 ・コンピュータが計算する仕組みについて興味・関心を持ち、理解しようとする。 ・情報のデジタル化について、より深く理解しようとしている。 ・コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示し、理解しようとしている。 ・数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を、主体的かつ適切に取り扱おうとしている。 			
		定期考査 ②						
	11	第4章 ネットワークとセキュリティ						
	12	第5章 問題解決とその方法						
	1							
	定期考査 ③							
2	第6章 アルゴリズムとプログラミング							
3								

科目名		情報Ⅱ			単位数	2	履修区分	選 択	
対象の部		午前	午後	夜間	使用教科書 教材	情報Ⅱ (実教出版)			
履修の条件		情報Ⅰを履修していること。データベースやプログラミングに興味があること。							
先生からの アドバイス		情報Ⅱでは、情報Ⅰで学んだことを基本として、問題の発見・解決に向けて情報システムや多様なデータを適切に、効果的に活用する力やコンテンツを作成していきます。また、プログラミング検定にも対応しますので、積極的に受験してください。							
評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学ぶ態度			
観 点 の 内 容		情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。		事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。		情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。			
評価 方法	学習状況の観察	△		△		◎			
	プリント	△		△		◎			
	提出物	△		△		○			
	定期考査	◎		◎		○			
学期	月	学習内容(单元名)	評 価 規 準						
前 期	4	第1章 情報社会 第2章 データサイエンス 1 データサイエンスの分類 2 データの整理と変換 3 データ分析と可視化 4 統計的推測 5 機械学習の概要	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の変化について理解することができる。 データ、情報、知識の意味と相互の関係について説明することができる。 情報セキュリティに関する法整備について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティの3要素について説明することができる 報セキュリティに関する法整備に基づいて情報セキュリティを判断しようとしている よりよいコンテンツになるように、工夫しようと思考している 	<ul style="list-style-type: none"> 実社会の実問題に対するデータサイエンス技術の応用に興味・関心を示している。 インターネットに公開されているデータ、例えば政府統計データに興味・関心を示している。 機械学習の技術を応用した実サービスや製品に興味・関心を示している。 データ分析に基づく身近な社会問題の解決について興味・関心を示している。 				
	5	定期考査 ①							
	6	6 回帰による分析 7 分類による分析 8 クラスタリングによる分析 9 評価と意思決定							
	7	定期考査 ②							
	9	第3章 プログラミング言語				<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの要素技術や実社会における応用について理解している インターネットからのデータ収集についてデータの形式や収集の方法を理解し、実際に政府統計データなどを取得することができる 表計算ソフトを用いて行や列の抽出、並べ替え、値の変換、削除や追加などの処理を行うことができる 表計算ソフトを用いて重回帰の分析ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな情報システムの役割を考えている。 情報システムを処理形態による分類や利用分野による分類で説明することができる。 モジュール分割のメリットや適切に分割する方法について説明することができる。 Pythonの辞書とJSON形式の文字列の違いについて説明することができる。 どのようなSQLを使用したらよいかを判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな情報システムの役割を考え、社会生活を便利にしようとしている。 情報システムの評価指標を高めるための方法を考えられる。 社会の中で稼働している情報システムに興味・関心を示している。 情報システムの開発手法について興味・関心を示している。 UMLに興味・関心を示し、システムの構造や処理の流れを図示することに意欲的に取り組んでいる。 	
10	定期考査 ③								
11	第4章 情報システム 1 社会の中の情報システム 3 Webシステムの仕組み 4 データ送受信の方法 5 ファイル操作 6 データベースの操作								
12	定期考査 ④								
1	2								
後 期	2								
	3								

科目名		ビジネス・コミュニケーション		単位数	2	履修区分	選 択	
対象の部		夜間部			使用教科書 教材	ビジネス・コミュニケーション (実教出版)		
履修の条件								
先生からのアドバイス		社会で必要となる基本的な技術、知識が学べます。また、計算方法や簿記の基礎を学ぶことができます。						
評価の観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度				
観点の内容		ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解し、コミュニケーションをとるうえで関連する知識や技能を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、コミュニケーションが企業に及ぼす影響を踏まえ、成功事例や改善を要する事例などについてよりよく解決することを考えてい	ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員としての自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを				
評価方法	学習状況の観察	△	△	◎				
	プリント	△	△	◎				
	提出物	△	△	○				
	単元別小テスト	◎	◎	○				
学期	月	学習内容(単元名)	評 価 規 準					
前 期	4	第1章「ビジネスとコミュニケーション」	<ul style="list-style-type: none"> 国内外でのビジネス環境が変化したり、組織内部の人材が多様化したりしていることを理解している。 コミュニケーションの定義について理解している。 組織の階層構造についての知識を身に付けている。 組織の意思決定の流れと方法についての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外でのビジネスにおいて、人材や組織に対応したコミュニケーションの方法について考えようとしている。 身の回りの具体的な事例を踏まえて、普段の生活におけるコミュニケーションの方法について考えようとしている。 組織の階層構造がビジネスに与える影響について、考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外でのビジネス環境の変化に興味・関心を持ち、ビジネス・コミュニケーションについて主体的に学習しようとしている。 組織の階層構造や意思決定の方法について主体的に学習しようとしている。 どのような組織にどのような階層構造が適しているかについて、考えようとしている。 			
	5	第2章「ビジネスマナー」						
	6	定期考査 ①						
	7							
	9							
後 期	10	第3章「ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション」	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶に必要な要素について理解している。 日本の慣習や文化を紹介するときのポイントについて理解している。 英語による受け答えの基本についての技術を習得している。 商品のやりとりをする際、特定の英語表現を用いることで、ビジネスの機会が広がる可能性があることについて理解している。 英語を話す顧客に落ち着いた対応するための技術を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> よい雰囲気の中で会話をおこなうために必要な挨拶の要素について考え、表現しようとしている。 日本の慣習や文化の特徴について考えている。 英語による受け答えの基本について説明することができる。 事前に調べた英語表現を用いて、自己紹介しようとしている。 商品やサービスに関わる英語表現について考え、表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の慣習や文化に興味・関心を持ち、異なる文化を持つ相手に伝えようとする態度を形成できている。 場面に応じた適切な受け答えを実現していこうとする態度を形成できている。 英語を用いて自分の趣味や気に入っているものについて相手に伝えようとする態度を形成できている。 			
		定期考査 ②						
	11	第4章「ビジネスと外国語」						
	12							
	1	定期考査 ③						
	2							
	3							

科目名		情報処理			単位数	2	履修区分	選択	
対象の部		午前	午後	夜間	使用教科書 教材	情報処理 (東京法令)			
履修の条件		タイピングを苦としないこと							
先生からの アドバイス		ワープロソフト、表計算ソフト（マイクロソフト社・ワード・エクセル）の活用について学びます。検定を年3回実施していますので、積極的に受験してください。							
評価の観点		知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学ぶ態度			
観点の内容		企業において情報を適切に扱えるようにするための知識や技術を、実務に即して体系的・系統的に身に付ける		情報を適切に扱うことで、さまざまな問題を発見し、解決していきえるようにするための力を身に付ける		情報に関する知識や技術を活用し、主体的かつ協働的に問題を解決し、企業活動を改善していこうとする態度を身に付ける。			
評価 方法	学習状況の観察	△		△		◎			
	プリント	△		△		◎			
	提出物	△		△		○			
	単元別小テスト	◎		◎		○			
学期	月	学習内容（単元名）	評		価		規		準
前 期	4	第1章「企業活動と情報処理」 第2章「コンピュータシステムと情報通信ネットワーク」	・情報システムがどのような技術によって支えられているのかを理解している。 ・情報モラルとは何か、情報モラルを守るためにはどのようなことに気を付ければよいか、などについて理解している。		・ビジネスにおいて情報を効果的に活用するための情報処理の方法について考えようとしている。 ・情報モラルに関する課題がある具体的な事例について、その問題点と解決方法を考え、表現しようとしている。		・情報処理の重要性について関心を持ち、情報処理について主体的に学習しようとしている。 ・情報社会において、情報モラルを守ることの重要性を理解したうえで、情報モラルをさまざまな場面で実現していこうとする態度を形成できている。		
	5		・知的財産の種類やそれぞれの具体的な内容について理解している。						
	6		・個人情報保護法について理解している。						
	7	第3章「情報の集計と分析」							
	9								
後 期	10	第4章「ビジネス文書の作成」	・統計で扱うデータの種類や、データを収集するための調査方法について理解している。		・情報を効果的に活用するためには、情報を統計的手法によって分析することが重要であることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。		・情報を効果的に活用するためには、情報を統計的手法によって分析することが重要であることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。		
	11		・表の種類や、表の構成要素について理解している。		・表計算ソフトウェアを適切に活用することで、主体的にその方法などを学習しようとしている。		・表やグラフを用いることによって、情報を視覚的に分かりやすく表現することが可能となることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。		
	12	・表計算ソフトウェアの特徴や画面構成について理解し、基本的な操作方法を習得している。		・個人や企業が直面するさまざまな問題について、情報を適切に活用することでそれらを明確にし、解決の方法が見いだせることを理解し、主体的にその方法などを習得しようとしている。		・表計算ソフトウェアを適切に活用することで、情報を分析したり加工したりすることができることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。			
	1	第5章「プレゼンテーション」	・情報を処理するための基本的な関数について、それぞれの特徴を理解し、使用する技術を習得している。						
	2	・表計算ソフトウェアを用いてグラフを作成するための技術を習得している。							
3	・条件による場合分けによって処理を分岐させるこ								